

■今年の国語は！？

出題形式に変化はないが、文章量が昨年より激減！

■出題形式

大問数は3問。論説文、物語文、漢字の順で出題されている。出題形式に大きな変化はなく、大問ごとの小問数も14～16問辺りで推移している。

記号、書き抜き、記述問題と偏りのない問われ方がされている。記述問題も、それぞれの小問に1問ずつ出題されており、字数は両方とも50字以内であった。'18年度からどの日程でも「本文の内容の正誤問題」が出題されており、

入試問題でよくみられる「○・×」で答えるのではなく、「A・B」で答えなければならないことに留意したい。また、昨年度（'19年度）と今年度（'20年度）とB4縦形式の解答用紙であった。

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	60分	60分	60分
大問数	3問	3問	3問
小問数	28問	32問	29問
配点	150点	150点	150点
最高点	男子S理/男子英数 女子S選/女子英数/女子特進 137/126 141/129/126	男子S理/男子英数 女子S選/女子英数/女子特進 141/141 141/139/135	男子S理/男子英数 女子S選/女子英数/女子特進 143/142 146/139/138
受験者平均点	99.8/95.2 109.5/104.0/96.8	106.1/104.7 116.4/11.5/102.8	非公表
合格者平均点	117.8/100.2 124.6/113.6/104.3	114.4/110.9 129.2/120.5/113.2	127.3/122.4 134.7/128.1/119.3

※ 漢字15問は小問1問として数えています。

※ 4科目選択者は、4科目合計=450点満点か（国+算+理）×1.2=450点満点のいずれか高い方で判定。
3科目選択者は、（国+算+理）×1.2=450点満点で判定。

■出題内容

- ㊦ 論説文：『人が死なない防災』 片田 敏孝 約3000字 集英社新書
- ㊦ 物語文：『廃校先生』 浜口 倫太郎 約3800字 講談社
- ㊦ 漢字：読み書き（書き10問 読み5問）

昨年度は㊦の文章量が約4000字、㊦の文章量が約6000字だったことを考えると、文章量は大きく減った。しかも、文章の読みやすさは変わらないままであったので、全体として難易度は下がったと言える。㊦の文章では、自然災害への考え方がテーマとなっている。筆者の主張と具体例や体験が明確に分かれており、受験生にとって読みやすい内容だったと言える。空欄補充や言い換え、場面分けの設問が偏りなく並んでおり、文章の内容をいかに的確に読み取ることができるかに主眼が置かれている。㊦の文章では、主人公の通う小学校が廃校となることに対する心情がテーマとなっている。廃校となることに強い反発を持つ主人公だったが、賛成する人々の思いに触れることで、反発が和らいでいく。物語文からの出題にも関わらず、心情や理由だけではなく、文章の流れや文脈把握を問う問題が多く、例年通りの傾向と言える。㊦では、書きが10問、読みが5問出題されている。一見簡単そうに見えるが、受験生がよく間違える漢字が並んでおり、日頃の積み重ねによって大きく差が生まれるところである。

■合格に向けての対策

まずは漢字の問題を全て正解できるような準備が必要です。出題内容は4年・5年で習うものも多く、テストや授業内で一度は書いたことがあるはずのものばかりなので、取りこぼしは大きな痛手です。日頃から、ただやみくもに書くのではなく、「意味」や「間違いやすい点」などを意識して練習することが必要です。また、「同音異義語」や「同訓異字」もよく出題されるので、これらも確実におさえてください。

次に、読解については、特殊な出題パターンは見られず、オーソドックスなものが並びます。「何が問われているのか」、「どのように考えるのか」、「本文のどこに書かれているのか」、「どのように答えるのか」を丁寧に繰り返す必要があります。傾向と対策をつかむよりも前に、基礎的な解き方をしっかりと身につけなければなりません。6年生のテキスト『小6国語』で説明される「読み方」「解き方」「答え方」を何度も復習をして、自分の力で「どの考え方をすればいいのか」という判断ができるようにすることがまずは必要です。

また、本校では知識問題も幅広く出題されます。「四字熟語」「慣用句」「ことわざ」「文法（特に主語・述語・修飾語）」「熟語」といった単元は6年生の前期までに覚えてください。

これらの学習を終え、基本が身につけてから過去問にあたり、傾向と対策を考えて学習していく必要があります。本校の試験日程は複数ありますが、どの日程も傾向はほぼ同じなので、過去問演習では日程にこだわらず問題を解いていってください。

記述問題では、数は多くないのですが、記述量は40字～60字程度のもので例年見られます。ただし、複雑な問題ではなく、本文中からいくつかの材料をとり出してつなげるといった問題なので、しっかりと考えれば答えを導き出せるものとなっています。

記述対策として、さまざまな入試問題を解く中で出てきた記述問題の書き直しをすることが挙げられます。その中で「全体の構成を考えること」と「本文中から材料を探すこと」を常に念頭に置いて取り組み、書き上げたものは添削してもらって「人に伝える記述」を意識することができるでしょう。

本校の国語で合格点を取るためには、日頃から「答え」に至るまでの「過程」を大切に学習を心がける必要があります。

■今年の算数は！？

過去の傾向を踏襲しつつも、問題数はやや減少。基本問題の徹底した習熟が大切。

■出題形式

全日程に於いて、男子スーパー理系選抜・女子スーパー選抜・男女英数・女子特進の全コース共通問題である。また、男女ともに1次A, B, 2次A, B日程となり、入試回数が4回である。ただし、1次B日程は国算2教科での実施である。ここでは、1次A日程について分析する。今年度（'20年度）の問題は大問6問構成で、60分実

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	60分	60分	60分
大問数	6問	7問	6問
小問数	28問	30問	26問
配点	150点	150点	150点
	男子S理/男子英数 女子S選/女子英数/女子特進	男子S理/男子英数 女子S選/女子英数/女子特進	男子S理/男子英数 女子S選/女子英数/女子特進
最高点	148/128 139/135/113	134/134 137/125/120	144/139 145/133/115
受験者平均点	91.8/84.9 90.3/81.1/68.5	91.9/89.1 91.7/82.6/73.8	102.2/95.6 96.3/81.6/67.3
合格者平均点	115.4/97.5 113.5/97.5/80.0	116.7/97.2 116.3/92.8/82.9	127.2/105.3 122.8/100.6/80.1

※ 4科目選択者は、4科目合計=450点満点か(国+算+理)×1.2=450点満点のいずれか高い方で判定。
3科目選択者は、(国+算+理)×1.2=450点満点で判定。

施の150点満点。①は四則計算2問と独立小問が7問の計9問。②・③・⑤は小問が3問、④・⑥は小問が4問であった。大問が6~7問なので、例年通り。小問数は26問（例年は28~30問）とやや少なくなった（別日程でもほぼ同じ）。

■出題内容

- ① (1)(2) 四則計算 (3)表とベン図 (4)やりとりの問題 (5)過不足算 (6)つるかめ算 (7)仕事算 (8)時計算 (9)場合の数
② 規則性 ③ 旅人算 ④ (1)~(4)比と平面図形 ⑤ (1)~(3)立体図形(図形の移動)
⑥ (1)~(4) 立体図形(水問題・つるかめ算)

① 例年通り計算と小問。今年度は1問減って9問となったが、概ね基本の典型的な問題。② 正三角形のタイルを並べて大きな正三角形を作る規則性の問題。素早く図や表をかくて規則を見つけることが大切。昨年度（'19年度）は類似の問題が③に出題されていた。③ つながった1周のコースを2台の車が走る旅人算。1周の長さが与えられていないので、1周の長さを1とおくか、AとBの所要時間の最小公倍数の15とおいて解く。④ 円周上に等間隔の12個の点があり、それらの点を結んでできる六角形や四角形の角度・長さ・面積を求める問題。(1)~(4)はいずれも独立している。全問図形の基本問題として頻出しているので、複雑な図形の中から基本図形を見つける練習が必要。⑤ (2)~(3)は、三角柱を底面の一边を軸に回転させたときの、点の移動の長さや面が通過した部分の面積を求める問題。移動する点や面は回転軸に垂直であるので、移動の軌跡は平面図形としてとらえることができる。図をかくて半径や中心角を間違えずに解くようにしたい。⑥ 水そうに水を入れていく体積や時間を求める問題。帝塚山頻出の内容。例年は水量とグラフを組み合わせた問題が出題されていたが、今年度グラフはなかった。(2)はつるかめ算の問題。(3)~(4)は体積計算をすることでも解けるが、比や仕事算を使うことで時間の短縮は可能となっている。

■合格に向けての対策

今年度は小問数が26問と例年より減少したことに加え、難問や手間のかかる問題が少なかったため、落ちついて解くことはできたと思われます。ただし、年度ごとの難易度の変化が激しい学校の一つであることを認識しておかなければなりません。時間は長い(60分)ものの問題量が多いのも特徴です。よって、合格のポイントとして「基本問題の徹底した習熟」「適切な時間配分と取捨選択」「難易度に振り回されない」「解いた問題はミスせず正解すること」の4点を掲げておきます。

今年度の1次Aでは、グラフを使った問題の出題は無かったのですが、1次Bや2次Aでは今年度も水量とグラフが出題され、2次Bでは流水算とダイヤグラムが出題されています。

頻出分野は、例年通り「図形や点の移動」、「水問題」、「速さ」の3分野で、これらに「グラフ」を融合させての出題があります。これらの分野に関しては、来年度（'21年度）に向けても余念のない対策をしておく必要があります。

また、今年度の④と⑤のように一見複雑な図形問題のようだが、問題集等でよく見かける問題を組み合わせたものが出題されていることから、単に基本問題を解くだけでなく、なぜそのように解けるのか、どんな形なのかなどを理解して応用できるレベルに高めておきたいところです。

対策としては、夏までにテキストで典型問題の解き方をマスターし、秋以降は、過去問演習を通じて問題の条件を図や表にまとめる練習を行い、時間配分と取捨選択の練習を徹底することです。帝塚山は過去問が大量にあるので、練習材料には事欠きません。丁寧に条件整理をできる力をつけることと、タイマーを用いて、難解な問題をどのタイミングで見切るかの訓練をしておいてほしいところです。

■今年の理科は！？

全大問に計算問題が入って難化。例年以上に30分では厳しい！

■出題形式

今年度（'20年度）、大問数は例年通り、物理、化学、生物、地学から各1問で4問、小問数は30問で昨年度（'19年度）より微減となった。一方、最近3年の合格者平均点の推移（男子スーパー理系選抜で60.9点→60.3点→49.2点、女子スーパー選抜で63.8点→59.6点→46.5点）から、今年度は大幅に難化したことが窺

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	30分	30分	30分
大問数	4問	4問	4問
小問数	34問	33問	30問
配点	75点	75点	75点
	男子S理/男子英数 女子S選/女子英数/女子特進	男子S理/男子英数 女子S選/女子英数/女子特進	男子S理/男子英数 女子S選/女子英数/女子特進
最高点	75/75 75/72/66	71/71 73/64/61	72/56 62/48/46
受験者平均点	51.8/50.0 49.8/45.9/41.8	48.8/47.3 47.5/43.0/38.0	38.3/35.8 35.8/30.7/27.6
合格者平均点	60.9/54.2 63.8/51.8/45.6	60.3/51.2 59.6/48.4/43.2	49.2/39.5 46.5/34.7/30.3

※ 4科目選択者は、4科目合計=450点満点か（国+算+理）×1.2=450点満点のいずれか高い方で判定。
3科目選択者は、（国+算+理）×1.2=450点満点で判定。

える。これは、昨年度や'18年度が解きやすい知識問題中心の大問とやや難しい計算中心の大問とははっきり分かれていたのに対し、今年度は大問ごとに計算問題が存在し、しかもその計算問題がかなり高いレベルであったためと考えられる。帝塚山の特徴は何といても試験時間が30分ということであり、そもそも時間的には非常にタイトである。以前には30分でも時間切れにならない基本的な問題が多く出題された年もまれにあったが、ここ数年は「30分なんて無理、40分あれば…」という出題が続いている。計算問題も含めて、定型的なものは手早くミスなく解いていくスピードと正確さが求められる。

■出題内容

- [1] 地学 星座早見と星の動きの計算
- [2] 化学 水溶液の中和計算
- [3] 物理 電磁石の磁力の計算と力のつりあい
- [4] 生物 水草の光合成量の計算

- [1] 問4(2)(3)が星の動きの計算問題だが、難しいものではない。そのため、4つの大問の中では最も解きやすく、全問正解すべきである。なお、その問4(2)(3)は、星座早見のしくみがしっかり理解できていれば、**図3**を用いて、計算なしで求めることができる。そうやって解いた者は後の問いで時間的な余裕が生まれただろう。
- [2] 中レベルの中和計算問題で、いくつかの典型的な解法を用いるだけだが、問題を読んですぐに解法を決めて解いていかないと、時間的に厳しくなる。また、**問5**で題意を正確に把握しきれずにミスした者もいたと思われる。
- [3] これも中レベルの電磁石の磁力の計算問題。特に難問はないので全問正解して欲しいところだが、鉄片の重さを忘れたり、力の向きを間違えたりして落とした者も多かったと思われる。力の向きに関しては、てこや浮力の問題でも重要な点になるので、ふだんの学習から特に注意してもらいたい。
- [4] **問3**までは単純な知識問題であるが、**問4**がハードである。水草の光合成量、呼吸量を考える計算問題だが、複数の実験の意図を整理するのに手間がかかるうえ、酸素の吸収量と放出量、二酸化炭素の吸収量と放出量が入り組んでいて、非常に解きにくい。この**問4**までにどれだけ時間を残せたか、が勝負の分かれ目になったに違いない。

■合格に向けての対策

本年度の難易度がかなり高かったことから、来年度はおそらく若干の揺り戻しはあると思われます。すると、やはり目安としては昨年度、'18年度と同様に、75点満点で男子スーパー理系と女子スーパー選抜で60～65点、男女英数で50～55点、女子特進で45～50点が必要な学校であると考えべきでしょう。上記のように、解答にスピードと正確さを求められる学校なので、中レベルまでの問題の取りこぼしは禁物となります。夏休み明けまでは特別な志望校別対策は必要なく、とにかく基本知識を固めて苦手分野を作らないように、ふだんの授業や宿題、ショートテストを確実に押さえる学習をしてください。

秋以降、各メンターの指示を受けて過去問に取り組むこととなりますが、質・量ともこのレベルの問題を30分でこなすのは帝塚山ならではのことで、帝塚山の過去問にはできるだけたくさん取り組むことが大切です。その際、必ず時間を計って解いてください。中レベル以上の問題を、スピード感を持ってミスなく解く必要があるのが帝塚山だと認識しておきましょう。幸い、理科も1次A、2次A、2次Bと1年に3つも問題を作っているうえ、それぞれの難易度は多少の例外を除いてほぼ同レベルとなっていて、毎年多くの問題を作っているためか、過去問とよく似た形式の問題が出ることも少なくありません。直前対策としては、赤本で過去問をひたすら解いて練習を重ねるのもあります。

■今年の社会は！？

帝塚山中攻略の3要素「漢字・スピード・正確さ」

■出題形式

帝塚山の入試は、1次A、2次A、2次B、とあるが、今回社会は、1次A入試の問題について分析してみたい。

さて、今年度（'20年度）の問題は大問5問構成で、これは'07年度以後踏襲されている。小問数は、'11年以來の50問ほどと、例年通りの問題数であった。実施時間は、30分実施の75点満点。

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	30分	30分	30分
大問数	5問	5問	5問
小問数	50問	49問	50問
配点	75点	75点	75点
	男子S理/男子英数 女子S選/女子英数/女子特進	男子S理/男子英数 女子S選/女子英数/女子特進	男子S理/男子英数 女子S選/女子英数/女子特進
最高点	68/68 70/67/64	65/63 70/70/59	70/69 74/65/65
受験者平均点	48.8/47.3 48.3/45.7/41.6	49.7/49.5 49.1/46.9/44.9	53.3/52.5 52.0/48.9/45.7
合格者平均点	54.4/51.9 60.0/51.8/46.0	52.0/50.6 56.0/49.4/47.9	56.2/53.4 57.4/52.4/48.8

※ 4科目選択者は、4科目合計=450点満点か、(国+算+理)×1.2=450点満点のいずれか高い方で判定。
3科目選択者は、(国+算+理)×1.2=450点満点で判定。

■出題内容

- 1 地理 関東・甲信越地方の各県の特徴 5つの県の特徴を述べた文に関する問題。
- 2 歴史 日本の通史 飛鳥時代と大正時代の政治に関する問題。
- 3 歴史 日本の通史 5つの時代の土地政策の変化に関する問題。
- 4 公民 国連と環境問題 2019年の気候をテーマに、国際連合のはたらきと地球環境に関する問題。
- 5 地理・歴史 日本の島の面積の大きい順の表をもとにした、地理・歴史に関する問題。

帝塚山といえば以前から漢字指定の多い学校で知られていたが、今年度もその傾向は続いている（語句解答24問のうち、漢字指定は17問）。また、(例年のことだが)試験時間30分で50問という問題量は少々多く感じられるうえに、正文選択・誤文選択といった文章を読ませる出題もあり、「速く・正確に」解答することが求められる。ただし、全体的に問題は標準レベルであるので、8割以上の得点もさほどハードルの高いものではないはずである。

- 1 関東・甲信越地方の各県の特徴に関する問題。5つの文に当てはまる県の場所を選択し、文中の空欄に入る語句を答えるという形の出題。ここ数年、1は日本のいずれかの地方が出題されており（昨年度（'19年度）は近畿地方、'18年度は中国・四国地方）、来年度（'21年度）もこの傾向が踏襲されることが予想される（九州地方あたりか?）。問題文・語句ともに学園の通常授業・日進などで繰り返し学習したものばかりであった。
- 2 飛鳥時代と大正時代に関する問題。文章中の空欄補充はほぼ漢字指定。正文選択・誤文選択の形式の問いも見られたが、難易度は標準レベルで、当学校の過去問などで練習を積んでいけば難なく解答できたであろう。
- 3 弥生・飛鳥・室町・安土桃山・江戸の各時代の土地政策や農民の暮らしに関する問題。こちらも文章中の空欄補充はほぼ漢字指定。東廻り・西廻り航路を開いた「河村瑞賢」を解答させるのはやや難か。その他の語句解答・選択問題のいずれも、学園の通常授業や日進でたびたび出された基本的なものばかりであった。
- 4 2019年の気候についての文に関する問題。地球温暖化やそのほかの環境問題（オゾン層の破壊・酸性雨）と国際連合に関する出題であった。難易度は標準的なものばかりであったが、次年度以降の入試でも、「環境問題」（持続可能な社会・SDGs）や「気候と災害」などをテーマにした出題は十分予想されるので対策をとっておきたい。
- 5 日本の島に関する地理・歴史の問題。いずれの問題も学園の通常授業・日進等で学習したものばかりであったが、「尖閣諸島は西表島から見てどの方角か」はやや難か。日頃から地図帳でしっかり確認することが重要である。

■合格に向けての対策

地理分野 地図やグラフを多く使った出題は帝塚山中学の特徴なので、『地図帳』や『日本のすがた』を使っただけの学習は必須です。時折、小問に時事的出題があるので、地理的学習だけでなく、時事問題と絡めた総合的な学習も必要になります。

歴史分野 時代背景や出来事の内容、人物に関してまで、歴史用語の漢字での書き取りはもちろん、例年、正文選択・誤文選択の出題が多く見られる学校であるので、単純な暗記だけではなく、内容をしっかりと理解する学習が必要であります。

政治・時事分野 例年、日本の政治では三権（国会・内閣・裁判所）に関する出題が見られるので、政治の特徴をしっかりとおさえた学習を心がけてください。また、その年の出来事はもちろん、注目されたものに関してもテーマとして取り上げられるので、それらに関連する用語・内容はしっかりと把握しておきましょう。

全体的に成基学園でのテキストや日曜進学教室（チャレンジコース）の復習をしっかりと学習すれば十分であり、入試突破のキーワードは「漢字&速く・正確に解く」ことです。